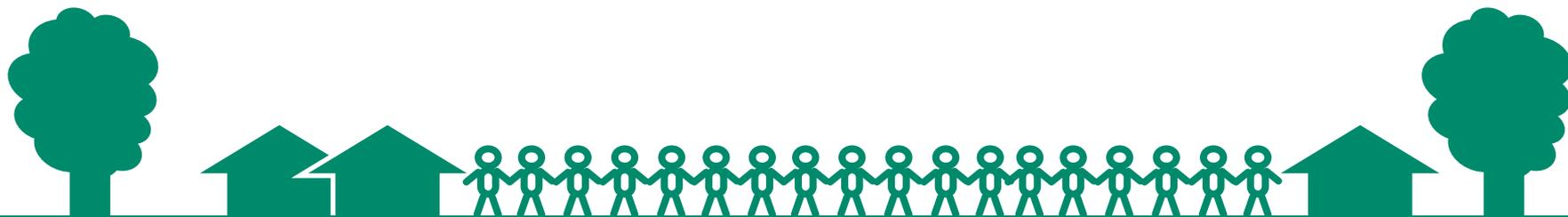


こんな“あした”になると、きっと、うれしい

～花王 生活者研究センターの活動紹介～



花王株式会社 生活者研究センター
ライフスタイル研究室 秋田千恵

ビューティケア事業



ブランド価値や個性を大切に育む「ソフィーナ」「カネボウ」といった化粧品から、スキンケア製品、ヘアケア製品など、お客さまの“美しくありたい”という願いに、高い技術でお応えする製品を、グローバルにお届けしています。

ヒューマンヘルスケア事業



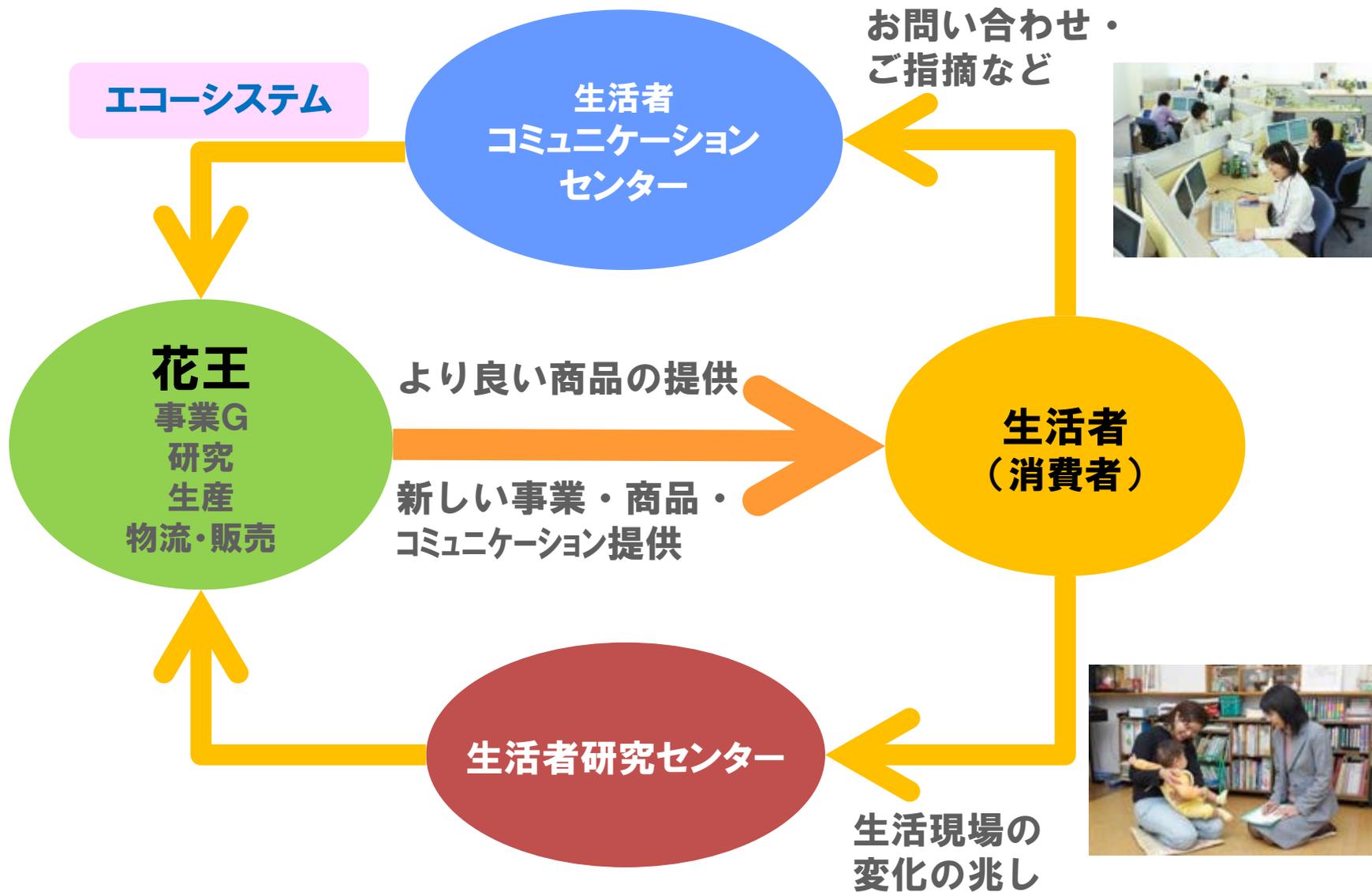
長年の研究が生んだ健康機能飲料「ヘルシア」のほか、生理用品の「ロリエ」やベビー用紙おむつ「メリーズ」といったサニタリー製品、「ピュオーラ」といったオーラルケア製品など、心地よく健康的な生活に役立つ製品を幅広くお届けしています。

ファブリック&ホームケア事業



衣料用洗剤「アタック」や柔軟剤「ハミング」といったファブリックケア製品、食器用洗剤「キュキュット」や住居用洗剤「マジックリン」といったホームケア製品など、毎日の暮らしをより清潔でより快適にする製品をお届けしています。

生活者の声を花王の商品に活かす仕組み



The Kao Way

花王ウェイ

■ 私たちは何のために存在しているのか



使命

豊かな生活文化の実現

■ 私たちはどこに行こうとしているのか



ビジョン

消費者・顧客を
最もよく知る企業に

**消費者・顧客を
最もよく知る
企業に**

■ 私たちは何を大切に考えるのか



基本となる価値観

よきモノづくり
絶えざる革新
正道を歩む

■ 私たちはどのように行動するのか



行動原則

消費者起点 現場主義
個の尊重とチームワーク
グローバル視点

消費者起点

生活現場での観察と対話を重ねながら、
一人ひとりを深く知り、行動や言葉の奥深くにある「おもい」を読み解いていきます。



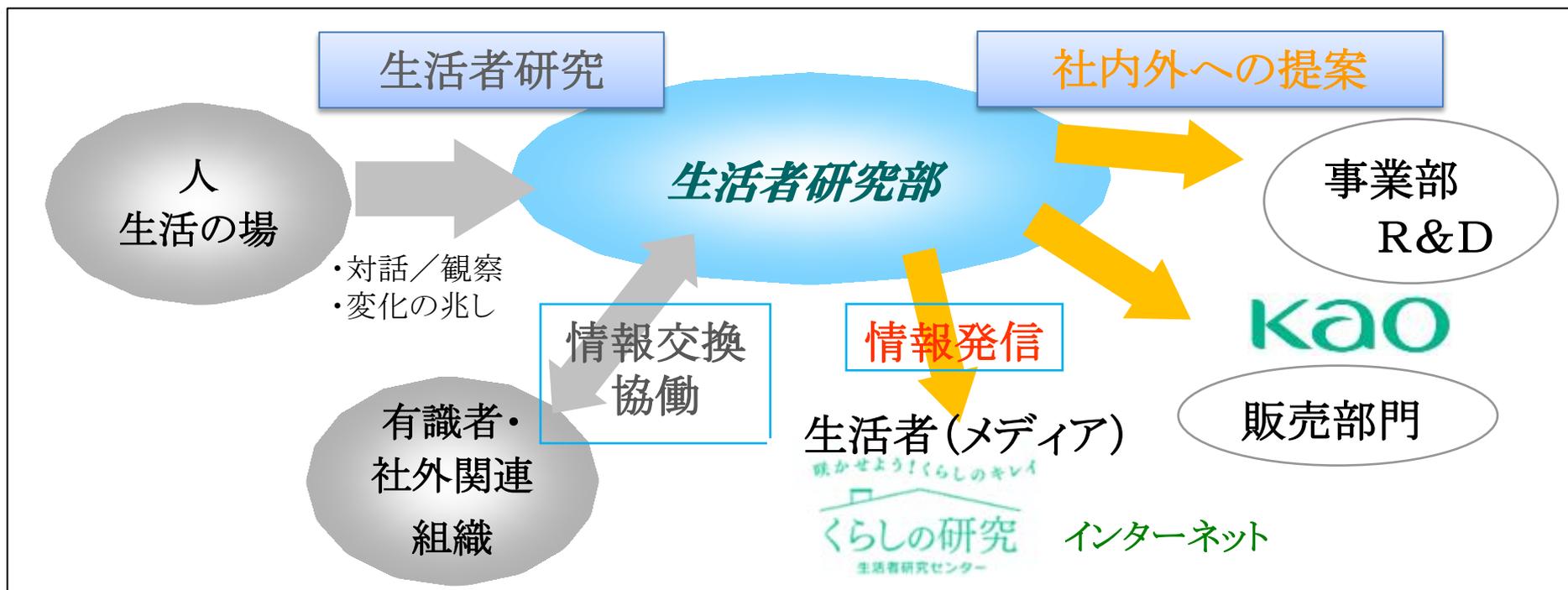
美容研究

健康・食生活研究

育児生活研究

家事研究

海外生活研究



生活者の「おもい」に寄り添い、事業・商品・コミュニケーション開発への提案をしています。

「くらしの研究」の紹介

くらしの研究 検索



<テーマ>

若者

子育て

働き方

高齢社会

おとなの女性

おとなの男性

グローバル

生活スタイル

くらしの現場レポート

チャレンジする気持ちを大切に
仕事も暮らしも、私らしく

2017.03.22 | 働き方、子育て



くらしの現場レポート

20代、30代の働く女性の多くは、結婚や出産などのライフステージの変化によって影響を受けやすいのが現状です。女性の働く力に大きな期待が集まる一方で、彼女たちは働き続けたいと思いつつも、責任感や周囲への気遣いから「これから」の選択に迷う。そんな姿が浮き彫りになってきました。

「見えるつながり」を大切に
家族と地域のおもいを引き継ぐ学生たち

2016.11.15 | 若者、グローバル



くらしの現場レポート

月刊ソトコト編集長 指出一正さん
まちづくり、地域にかかわるってかなり面白い

2016.11.15 | 若者、グローバル



達人コラム

花王の生活者研究の視座



ビューティケア

ありたい美しさ
外見力のもと
外見力に求める価値

ヒューマンヘルスケア

健康時間
からだケア、こころケア

ファブリック&ホームケア

求める暮らし方
家事スタイル・家事シェア

こんな“あした”になると、きっと、うれしい。



働き方研究
女性就労

高齢社会
介護・消費・生活

Non-Japanese
インバウンド/在日/中国・タイ

地方の暮らし
消費・シニア・若者・インバウンド

環境(エコ)意識・関心

若者研究
価値観・消費・生活

子育て世代
マタニティ・育児・家事分担

マチュア女性
ライフスタイル・ヘルス・ビューティ

男性研究
美容・健康・家事

1. 生活者の声をきく

生活者研究部の紹介

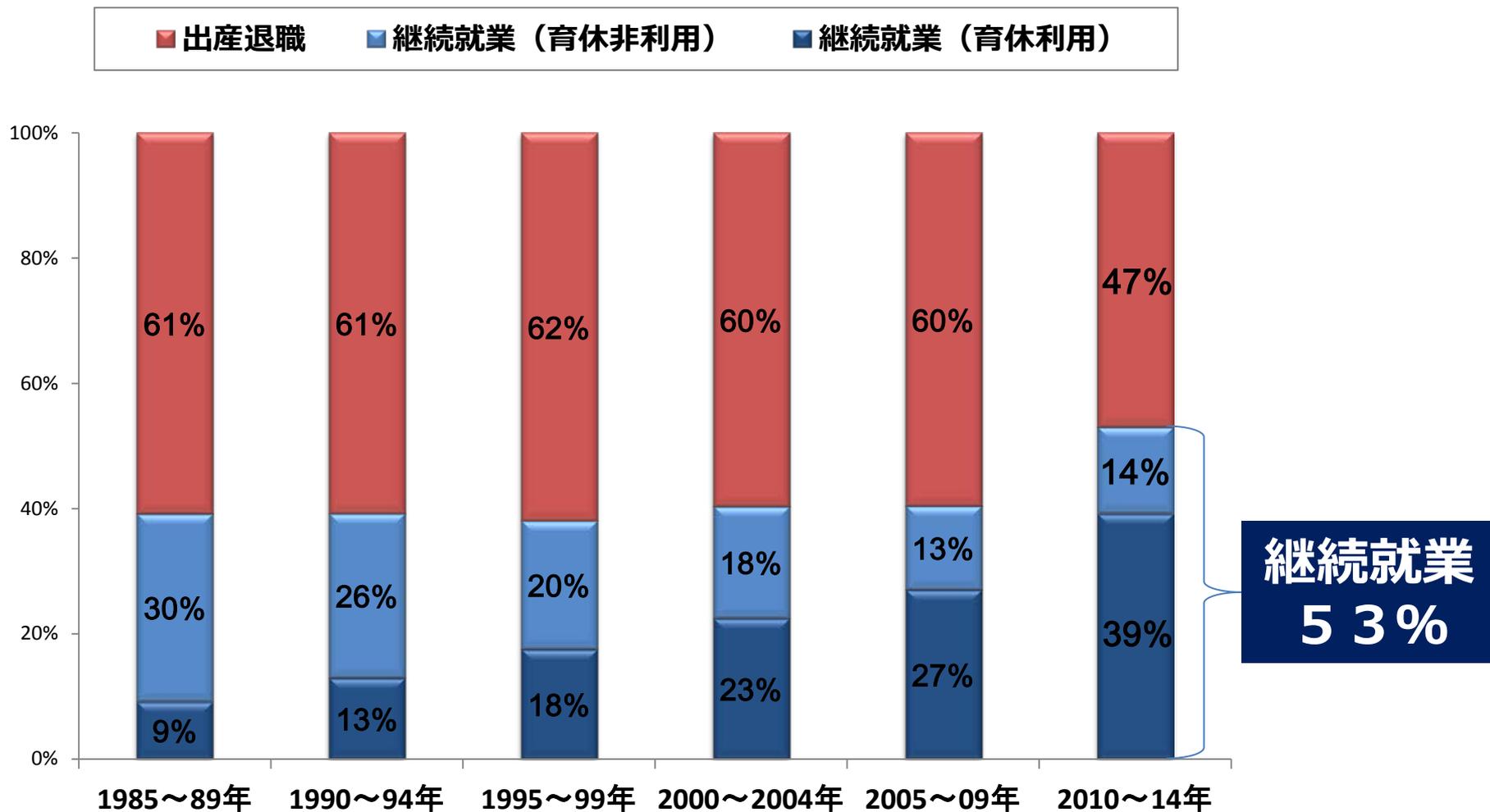
2. 生活者とともに「共創」する

～働くママ支援の取組み



3. まとめ

出産後の女性の就業率



国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」より出産前の就業者を100%として再計算)

男女雇用機会均等法から30年、妊娠・出産後に継続就業する女性はまだまだ少ない

働く女性のおもい



25～39歳有職女性12名 家庭訪問インタビュー
15年 花王 生活者研究センター 調査

(可能な限り)
働き続けたい

一生働けると資格を
取り保育士に
(既婚/子どもナシ/フルタイム)

(仕事も家庭も)
責任を果たしたい

仕事はきちんとやりたい。
家でも勉強してる
(34才/フルタイム/未婚単身)

(可能なら)
チャレンジしたい

不動産の資格を取って
主任になりたい！
(35才/フルタイム/既婚子無)

仕事と育児の両立について…

人に迷惑を
かけたくない

子育て中の先輩のフォローに
内心迷惑…
同じ思いをさせたくない
(既婚/子どもナシ/フルタイム)

前例がないから
自分にはムリ！

昇進は独身の貫録系。
育休取得の時点で
昇進はないと割り切った
(既婚/子育て中/フルタイム)

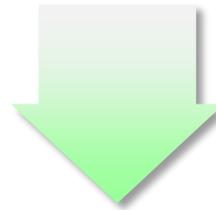
「子育てしながら働く」ことによいイメージがなく、“やらずにあきらめ”てしまう

(可能な限り)
働き続けたい

(仕事も家庭も)
責任を果たしたい

(可能なら)
チャレンジしたい

チャレンジする気持ちはあるのに
“やらずにあきらめる” が課題



時短勤務、育休延長など
育休制度は整いつつあるのに…

仕事と子育てを両立している女性たちの日々の工夫を伝え、
働く女性の気持ちを応援するために、
パターン・ランゲージ『日々の世界のつくりかた』を作成

慶應義塾大学 総合政策学部 井庭崇研究室と共同研究



状況 (Context)

問題 (Problem)

解決 (Solution)

No.5

一日のパッキング

スーツケースに詰めるように、
その日にやることをパッキング。



やることがたくさんあり、時間が足りなくなりそうです。

▼そのとき

単に順番に取り組んでいくと、その日にやるべきことがすべて終わらない可能性があります。

▼そこで

その日にやることを一度すべて並べ、それらを一日のなかにもどどのように収めるのかを考えて計画を立てます。限られた時間でやるべきことをきちんとこなしていくことができます。

どのような状況のときに

どのような問題が生じやすく

どのように解決すればよいか

**仕事と子育てを女性たちの両立の秘訣を34のランゲージ（言葉）にまとめたもの
状況・問題・解決の3段階で記載＝経験の共有＋気づきの一助に**

『日々の世界のつくりかた』の反響

～自分らしく子育てしながら働くためのヒント～



優しい語り口で
自分の気持ちに
寄り添ってくれている。
早速、オフィス内の方々に
紹介してもらいました
(30代既婚女性)

自分らしくいられるよう
仕事・家庭両方に無理が
でないように過ごして
いきたいと思います
(30代既婚男性)

部下の女性に渡したところ、
「自分を認めてもらっている
ようでうれしい」と言われた。
(50代女性)

正直なところ、非常に戸惑いま
した。それはそうだよ・頭では
わかってる・と。それができな
いから日々もどかしいんだ、と
いう葛藤、苦しさがこみ上げて
きて、読んでいて解決と真逆の
ストレスを感じてしまいました。

私自身も「やってみよう！」
精神を大切に頑張りたい
と思えました。
(20代・未婚女性・学生)

自分(65歳の孫二人の
爺さん)が子育て時にあれば
良かったのに残念！！
(60代既婚男性)

「日々の世界のつくりかた」の
世界観は優しく、明るいもの
ですが、働いているとそういうこと
ばかりでもないと感じています。
一筋縄ではいかない部分にも、
踏み込んで、言葉を与えて
頂けたらありがたいです

少し先の未来を明るく考えられる支援が必要

「わたしの働く暮らしを考える」ワークショップを実施

花王社内：計11回 参加者 120名
(東京・栃木・小田原・和歌山)

社外： 計17回 参加者 411名

合計28回 531名

(17年3月～18年11月までの実施)

学会・大学

(計8回 238名)

- ・日本家政学会
- ・日本ガスタービン学会
- ・日本家庭教育学会
- ・横浜国立大学家政学会
- ・東京大学 安齋先生 など

自治体・公的機関

(計5回 83名)

- ・国連人口基金(UNFPA)
(CSRジャパンセミナー)
- ・龍ヶ崎市ハローワーク
マザーズコーナー
- ・長崎県 大村市
- ・兵庫県 豊岡市
- ・奈良県 生駒市 など

NPO

(計4回 90名)

- ・超福祉展
(ピープルデザイン研究所)
- ・認知症フレンドシップ
ジャパンサミット
- ・お母さんとキャリア
支援事務局 など

ワークショップを実施して、わかってきたこと



《ワークショッププログラム》

これまでの暮らしの振り返り



3年後の暮らしを描く



- **自分自身を振り返ることで、自分にとっての大事な価値観を知る**
- **まわりの意見を聞いて、気づきを得る**
多様な考え方、暮らしを知り、気持ちがゆさぶられる
- **カードをヒントに明るい未来を描き、自ら変わるための答えを見つける**

豊岡市：ママの声をワークイノベーション戦略に反映

【課題】

女性の
働きやすいまち
にしたい

子どもの医療費を
タダにするだけでは
女性は喜ばない。
住民の声を聞くことが
大事

女の人はいへん。
娘には同じおもいを
させたくないから
戻ってこいとは言えない

城崎温泉にて



18年9月 豊岡市で働くママに
「これからの暮らしを考える」
ワークショップ実施

働く女性のたいへんさ
には地域差あり

豊岡市

ワーク
イノベーション
戦略

進学等で転出した若者が
地元に戻って来ない。
男性は52%が地元に戻
るが、女性は27%。



働くママを支援する活動の広がり



2017年9月
花王が龍ヶ崎ハローワークで
「働くくらしを考える」
ワークショップを開催



ワークショップ体験をきっかけに、
キャリアコンサルタント仲間と自主的に活動

自ら活動に参加したい生活者が増えている

自分がどう暮らしたいか、社会でどう貢献するか。

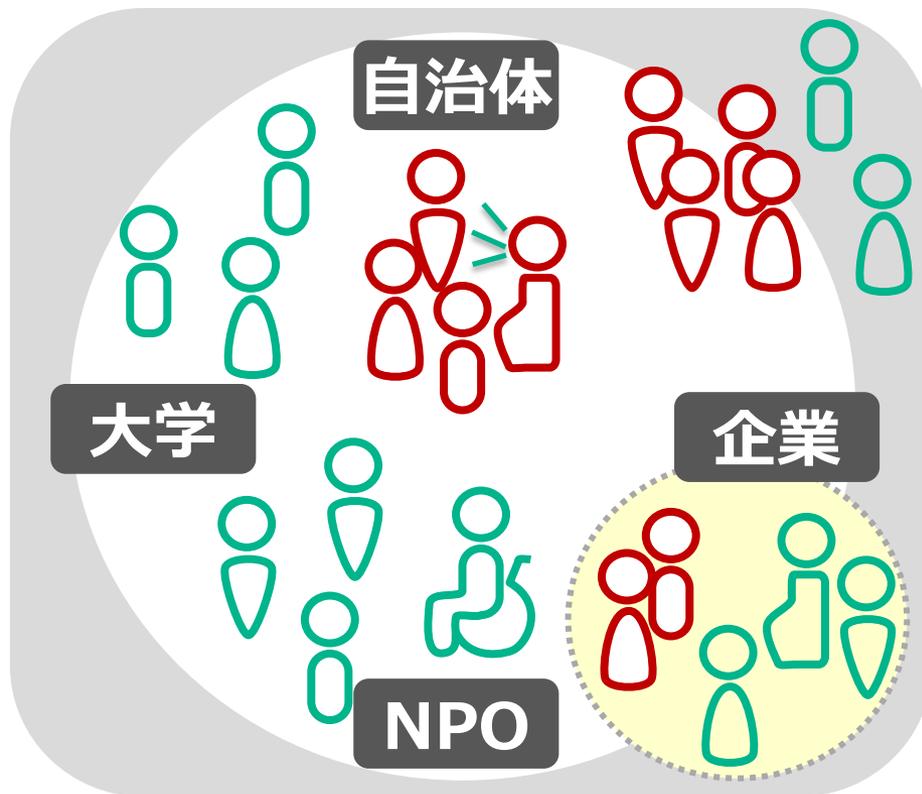
まとめ 働く女性のワークショップより



- ・ 働くママのたいへんさ、困りごとは地域差ありそう
- ・ パターン・ランゲージによって、話すきっかけがつかれる
- ・ ワークショップの場では、ママたちのホンネが出やすい
- ・ ワークショップで「話す」こと自体が、ママには好評
- ・ 生活者自らが変わりたい暮らしを見つけることができる



こんな“あした”になると、きっと、うれしい



「共創」の場をもつことで、生活者がどんな暮らしを望んでいるか が見える



住民自らが考え、自治体や企業と一緒にこれからの暮らしをつくりだす



ご清聴ありがとうございました。

くらしの研究 検索

